

# 南三陸町バイオマス産業都市構想の概要

宮城県南三陸町、人口 約1.5万人、面積 約1.6万ha

## 構想の概要

震災による甚大な被害の中で、「バイオガス事業」と「木質ペレット事業」を軸に、森里海街の資源ポテンシャルを活かした産業振興と災害に強いまちづくりによる創造的復興を目指す。

### 1. 将来像

- ①災害に強いまちづくり
- ②森里海街の資源ポテンシャルを生かした産業振興・雇用創出
- ③バイオマス資源の収集から製造・利用まで一貫した自立分散型社会システムの構築
- ④PPP(官民連携)による地域の社会的課題の解決

### 3. 目標(10年後)

- ①バイオマス利用率  
し尿:100%、合併浄化槽汚泥:100%、生ごみ:90%、有機系廃棄物(産廃):100%、製材工場等残材:100%、椎茸廃菌床:100%、林地残材:46%
- ②再生可能エネルギーの生産量  
バイオガス:17万m<sup>3</sup>/年  
木質ペレット:1千トン/年

### 5. 実施体制

・南三陸町、南三陸森林組合、南三陸農業協同組合が中心となって実施管理を行うとともに、有識者等からなる「南三陸町バイオマス産業都市評価委員会(仮称)」を立ち上げ、進捗状況を評価

### 2. 事業化プロジェクト

- ①バイオガス事業  
・生ごみ、し尿・合併浄化槽汚泥等を活用したバイオガス発電・熱利用と副産物の液肥利用
- ②木質ペレット事業  
・林地残材、製材工場等残材等を活用したペレットを製造し、公共施設及び一般家庭で熱利用
- ③①、②の事業と連携した様々な派生事業(藻類餌化事業(銀ザケの餌に活用)、薬草事業等)

### 4. 地域波及効果

- ①産業創出:9~10億円
- ②雇用創出:90~110人
- ③地域エネルギー創出:約600世帯相当
- ④ごみ処理施設の財政負担削減:約1億円/年
- ⑤温室効果ガス削減:1,873 t-CO<sub>2</sub>/年

### 6. その他

- ・南三陸町震災復興計画(H23)
- ・南三陸町環境基本計画(H22)

# 南三陸町 バイオマス産業都市構想 ～森里海街の豊かさが循環するまち～

## 【南三陸町がバイオマス産業都市を目指す理由】

- ・東日本大震災の教訓
- ・震災復興計画の策定・・・「エコタウンへの挑戦」「木質バイオマスの活用」などの取組推進
- ・森里海のポテンシャル
- ・廃棄物処理に関する課題・・・町内ごみ焼却炉がなく他市に委託、下水処理施設の機能停止
- ・地域バイオマス利用の可能性と課題

## 【南三陸町のバイオマス利用に向けた取り組み実績】

- ・再生可能エネルギーの可能性調査(H24)・・・バイオガスや木質ペレット事業の可能性
- ・バイオガス等の資源化実証事業の実施(H24)
- ・木質バイオマスエネルギーの実証調査事業の実施(H24)
- ・バイオガス液肥の利用試験の継続実施(H25)
- ・町有林のフォレストストック認定とペレットストーブ補助制度の創設
- ・公共施設へのペレットボイラー導入へ

## 【バイオガス事業】 (H26年度に具体化)

<第一段階>

- ・10.5t/日規模
- ・原料構成:  
生ごみ:3.5t/日  
余剰汚泥:7t/日



<第二段階>  
(10年以内に具体化)

- ・35t/日規模へ増設
- ・原料構成  
生ごみ:3.5t/日  
し尿・合併浄化槽  
汚泥:30t/日  
有機系廃棄物  
(産廃):1.5t/日

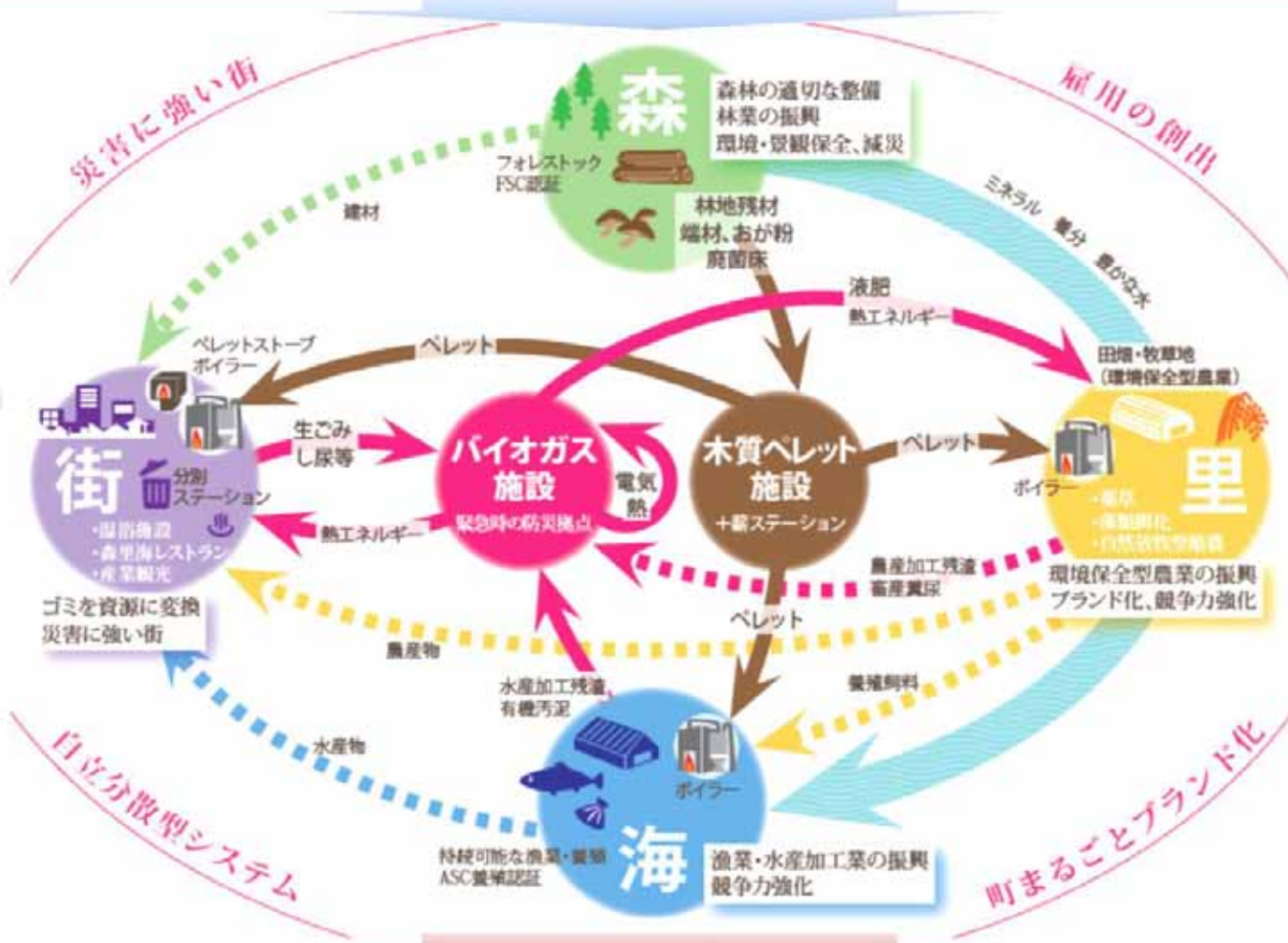
## 【木質ペレット事業】 (5年以内に具体化)

- ・木質ペレット設備:  
1000t/年の生産
- ・原料構成:  
林地残材、製材工場  
等残材、腐菌床等



## 【その他事業】 (10年以内に具体化)

- ・コミュニティ銭湯
- ・地域まるごとブランド商品の開発
- ・自然放牧型酪農
- ・銀ザケ餅の地産地消
- ・薬草事業
- ・レストラン事業
- ・産業観光の開発
- ・薪ステーション



## 【目指すべき将来像】

- 災害に強いまちづくり
- 森里海街の資源ポテンシャルを活かした産業振興・雇用創出
- バイオマス資源の収集から製造・利用まで一貫した自立分散型社会システムの構築
- PPP(官民連携)による地域の社会的課題の解決

## 【波及効果】

- 資源循環ビジネスの創出規模9～10億円、雇用創出90～110人
- 600世帯相当のエネルギー供給、廃棄物再生利用率向上、温室効果ガス削減
- 農業振興(液肥による農業競争力向上など)、森林整備の促進
- 震災復興計画に掲げる「創造的復興」の実現など